

第1回ごみ焼却施設用地検討部会議事録（概要）

- 1 **開催日時** 平成25年12月20日（金）午後2時から午後4時まで
- 2 **開催場所** 鎌倉市役所本庁舎 第4分庁舎823会議室
- 3 **出席者** 荒井会長、河邊副会長（欠席：村田委員）
深山秀男様、石井信様、岩佐勝司様、吉田好明様、三浦昭男様、尾島隆史様
（欠席：矢澤基一様）
- 4 **事務局** 石井環境部長、小池環境部次長、小柳出環境施設課長、
近藤環境施設課課長補佐、齋藤環境施設課環境施設担当担当係長、
花田環境施設課環境施設担当

5 協議内容

- (1) 用地検討部会の進め方について
- (2) 建設候補地の選定手法について
- (3) その他

6 配付資料

- (1) 資料1 適地選定の進め方と選定方法
- (2) 資料2 候補地選定の流れ
- (3) 鎌倉市生活環境整備審議会条例と規則
- (4) ごみ焼却施設用地検討部会運用基準
- (5) ごみ焼却施設用地検討部会関係者名簿
- (6) 鎌倉市都市計画図

7 会議の概要

最初に自己紹介を行い、事務局よりごみ焼却施設用地検討部会の会長には荒井委員、副会長には河邊委員が選任された旨の報告がなされた後、協議に入り、主な質疑応答等の内容は次のとおりです。

(1) 用地検討部会の進め方について

荒井会長

傍聴者関係について確認をしたいと思います。通常、審議会は原則公開で、傍聴者を募集しますが、今回の用地検討部会については、審議会委員という立場ではない一般市民の皆様からご意見を聴取することとなりますので、公開・非公開について、いかがいたしましょうか。

なお、本検討部会での討議の経過等は、公開が原則である生活環境整備審議会に、逐時、報告をしていく予定ですので、その辺の事情も含めて、市民の皆様にご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

河邊副会長

千葉県印西地区の事例では学識4名、住民11名の合計15名で委員会を開催し、これまで8回行われているが、すべて公開となっており、10～15名の傍聴がある。私個人としては市民の皆様のご意見に従いたいと思う。

市民 A

内容が内容なので非公開が良いと思う。

市民 B

最初から一般公開をしても逆にまとまらないのではないかと。非公開が良いと思う。

市民 C

一般公開でも良いと思う。

市民 D

審議の進み具合を見て当面は公開にしないで話し合いを進め、テーマによって必要があれば再度公開を検討してはどうか。弾力的に考えてはどうか。

市民 E

焼却処理施設を 1 ヶ所にする議論の中で市民の中でもいろいろな意見が出てきたが、新しい焼却施設を造ることが必要であろうということになったが、「迷惑施設」というここからの時点で公開するよりも方向性が見えてから公開でも遅くはないと思う。

市民 F

市民 E の意見と同じく方向性が見えてから公開が良いのではないかと。

荒井会長

皆様のご意見をまとめますと、公開してもよいが 1 名、非公開か当面非公開にした方がよいというご意見が 5 名ということになりましたが、どういたしましょうか。事務局はどのように考えますか。

小柳出課長

当面は非公開とし、時期を見て公開という意見が複数あったため、そのようにさせて頂きたい。なお、公開が原則となっている生環審では要所要所で部会の報告を行うこととしたい。

ただし、議事録は公開とする。議事録の発言者の名前は A、B、C という形とし、各委員と市民の皆様にご内容確認をしていただいた後に公開とする。

荒井会長

それでは、今、事務局から説明がありましたとおり、当面は非公開とし、時期を見て公開ということで進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(了承)

(2) 建設候補地の選定手法について**齋藤担当係長**

適地選定の進め方と選定方法について齋藤担当係長より説明。

市としては、本部会では、候補地の抽出基準の選定、数を絞り込む際の選定基準、候補地を選定する上での比較選定項目などについて決めて頂くようなことを想定しているが、これからの皆様の意見を聴きながら作業を進めていきたいと考えている。目標としては来年 8 月を目途に考えている。次回の審議会では今後のスケジュールについて提示したい。

荒井会長

皆さんからの意見をお願いしたい。

河邊副会長

情報として印西地区の事例を紹介すると、基本的な流れは同じだが、印西は候補地を公募及び

構成市町並びに既設用地から選定しているところが違う。また、印西の場合は複数の候補地については順位付けをして管理者に答申することになっている。

市民 F

事務局案は常識的であると思う。プラントのキャパシティ（処理量）が基本計画で決まると、敷地面積も 1～1.2ha と自動的に決まってくると思う。また、必ず反対が出るので、どのようにして市民の理解を得るかがポイントである。ごみ処理のプラントだけでなくメリットのある複合的なプラントとして考えて頂きたい。ある程度、市民に対する説得力が必要だと思う。道路状況や環境で自動的に決まってくると思うので、まずは基本計画を作って絞り込んでいくべきであると思う。幅の広い選択ができるように進めるべきではないか。

市民 B

逗子市との広域化は全てだめになったと考えて良いのか。まず選定基準を決めてしまうと候補地が挙がってこないのではないかと。ある程度、念頭にある場所があるならば、その場所について議論した方が早く進められるのではないかと。

また、選定基準に拘らなくても良いのではないかと。反対意見がでることを承知の上で候補地を出し合った方が良いのではないかと。

市民 E

個人で迷惑施設の考え方には大きな差がある。行政は何もない所に新しく施設が建つことだが、周辺住民からすると当事者にとって迷惑な施設だということである。ダイオキシン類問題、収集車の集中による悪臭・騒音、煙が出ることによる環境問題など、これらはある程度整理しておかないと周辺住民から多くの質問が出る。また、焼却場単体で考えると住民からクレームが出る。例えば、市役所や他の公共施設と併設して設置すれば迷惑施設という印象が薄らぐと思う。敷地の大きさも限定されるが、今後は市役所、文化・体育施設、福祉・保健施設などとの複合施設として考えるべきである。また、施設のイメージが大事であり、設計の段階から周辺住民のイメージを明るくするようなデザインなどを提示することで、多くの方に理解していただけるような計画を示すべきではないか。

市民 D

どんな焼却場ができるのかというイメージは大事である。鎌倉では候補地は少ないと想定できるので、初めからリストアップしてそこで建てる場合の条件面を先に決めた方が良いのではないかと。

市民 C

イメージ的なものを考えておく必要があるのではないかと。山崎バイオマスエネルギー回収施設の場合は電力の供給を考えていたと記憶している。電力供給や余熱利用をして、地区の方には無料で開放するなどの意見もある。付帯設備などを考慮するというのも大事ではないか。

市民 D

（迷惑施設が）ずっとあった場所には根強い反対意見がある。感情論になっている。新しい施設のイメージというのが重要かもしれない。

市民 E

10 年先に出てくる問題ですから。大船にあるレイウエルのような施設を複合化するとかという、公共施設の融合を考えるべきである。

市民 C

耐震問題等もあるのであれば、役所としてどうするのか決めてもらいたい。

荒井会長

施設のイメージ、地元還元する施設、複合施設というのが意見として出たようですが、事務局はいかがお考えですか。

小柳出課長

地域に還元できて、迷惑施設とならない施設、複合施設、そういうものを目的とすると逆に候補地が限られてしまうという懸念がある。大まかな大きさは1~1.2ha程度ということなので、まずこの条件で抽出し、次のステップに進んでいければと考えている。

荒井会長

ある程度の大きさがないと造れないので、事務局からはまず一定の大きさに抽出してという意見があったがそれで良いか。

市民B

我々は昔のイメージしか持っていないが、最新の施設のことを学べばダイオキシンの問題も今は心配ない等という話もできるかもしれない。また、焼却施設の容量はどの程度のものを考えているのか。それがなくよく分からない。

小柳出課長

規模については基本構想において年間約3万t弱の処理能力を考えている。なお、減量審では、将来に渡り、市としてはどのようなものを燃やしていくか、資源化していくかを検討中である。両クリーンセンターとも、ダイオキシン類等の環境基準について問題はないが、収集車両の量や悪臭については、風向きによっては近隣住民にご迷惑をお掛けしていることもあると思う。先ほど、景観等の話が出ましたが、委員の皆様には、1月頃に都市部にできた焼却施設を見学して頂きたいと考えている。

荒井会長

次回の審議会で、最新の施設の整備する大きさや建屋のデザイン、大気環境(ダイオキシン類)の状況、地元還元施設等について、資料を示していただきたい。

小柳出課長

最近の事例をイメージでわかるように提示させていただく。

市民F

防災のことを考えると、キャパシティはある程度余裕を持った計画が必要である。また、シェルターや会議場所など複合施設については、必ずしも焼却施設と同じ場所である必要はないと考えている。

荒井会長

近年、災害対策のためにキャパシティを1割ほど大きくしている事例が多い。また、災害時には施設の部屋を区割りして使用したり、食糧を用意しておくなど、現在の他市におけるごみ焼却施設の状況を知る機会が必要である。

市民E

この事業は総合防災等、都市計画全体の中での位置付けや基準を設けていく必要がある。環境部だけの問題ではない。

市民F

縦組織だけで考えるのではなく横串を通して、市全体で検討する必要がある。福祉施設や雇用

の創出など、市の全体的なポリシーが必要である。

石井部長

市長を会長として、すべての部長が属する鎌倉市ごみ処理施策推進本部会議へ報告を行い、市全体で検討していくこととなっている。市民 E のおっしゃるとおり、この事業は大規模であるので、それだけ予算もかかる。用地を決める場合も他部の施策等との調整が重要である。こうしたことから、市全体の協議が必要となると考えている。複合的なものをどう整理するのも大きな点だと思うので、福祉・市民活動、公共用地の再編計画との整合も図る必要があるので、鎌倉市全体としてのコミュニケーション・合意形成を取れる体制で検討を進めていく。

市民 F

バイオマス施設については 65 億、メンテナンスで年間 8 億、高すぎるということであったが、複合施設として、全体事業が 60 億円であれば市民の理解を得やすいのではないか。ごみだけでなく福祉などのことも考えて知恵を使っていかなくてはいけないと思う。

河邊副会長

要望になるが、具体的なものがないとなかなか前に進まない。次回は鎌倉市の規模等に合った資料をお願いしたい。

市民 E

プロジェクトは、市長が変わっても軸が変わらないようにお願いしたい。

荒井会長

次回は新しい施設の整備事例、環境対策の事例、タイムスケジュール、選定条件、抽出に関する資料を出していただきたい。

(3) その他

小柳出課長

先例市の視察に行きたいと考えている。候補先があればご教示頂きたい。

荒井会長

ふじみ衛生組合（三鷹市・調布市）や、秦野市・伊勢原市あたりが良いのではないか。西多摩衛生組合も、炉の方式は違うが新しい施設である。

小柳出課長

それでは、ただ今のご意見を参考にさせていただきながら、視察先を決定させていただきたいので、決定次第、皆様にお知らせしたい。

次回の用地検討部会を 1 月 15 日（水）午前中に、本庁 402 会議室で開催したい。

荒井会長

それでは、次回の開催は 1 月 15 日（水）としますので、事務局は手続きをお願いしたい。

以上で、第 1 回ごみ焼却施設用地検討部会を終了する。

以上